

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	法学部・教授・塚田幸光
共同研究者 所属・職・氏名	サウスイーストミズーリ州立大学・教授・クリストファー・リーガー
研究課題	フォークナー国際会議における報告とプロツキーコレクション・リサーチ
共同研究 実施期間	派遣期間： 2018年10月9日～2018年10月15日 招聘期間： 年 月 日～ 年 月 日
共同研究 実施場所	サウスイーストミズーリ州立大学、フォークナー研究所

1. 研究の成果（本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。）

(1) 学術的価値（本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果）

2018年10月11日から13日まで開催された「フォークナー&ガルシア・マルケス会議」（サウスイーストミズーリ州立大学）に参加、報告した。アメリカ合衆国を代表する作家フォークナーと、南米コロンビアを代表するガルシア・マルケスの文学を比較考察し、合衆国と南米の文学的・文化的・歴史的交点を探るのがこの会議の目的である。フォークナー文学のスタイルをマルケスが踏襲し、それが魔術的リアリズムという南米文学特有のスタイルへと発展、継承されていく中で、文化的・社会的・政治的問題を多角的に捉えることは重要である。私は、自身の発表で、エスニシティ、宗教、メキシコ表象に注目することで、両作家の強固な繋がりを再考察するだけでなく、環カリブ文学として、両者を再定位した。

当然のことながら、この会議（学会）では、数多の報告が行われている。それら、最新の研究発表に触れることで、時代と地域を横断する思考を学び、研究に対する多くの示唆を得た。

(2) 相手国との交流（海外の研究者と学術交流することによって得られた効果）

「フォークナー会議」は、隔年開催され、サウスイーストミズーリ州立大学のフォークナー研究所が主催する。研究所所長であるクリストファー・リーガー教授が、フォークナーと関連する作家を選ぶという、作家二名に限定した「比較文学」学会となる（本年は「フォークナー&ガルシア・マルケス」の考察）。当然のことながら、フォークナー研究者が集うだけでなく、今年の比較対象であるガルシア・マルケスやラテンアメリカ文学の研究者も参集し、多くの議論が交わされた。今年の収穫は、ラテンアメリカ文学・文化に関する多くの研究者と交流が持てたことである。基調講演を行ったデボラ・コーン教授もその一人である。アメリカ合衆国文学とラテンアメリカ文学との「比較文学」(Comparative Literature)に従事する学者はそれほど多くない。その貴重なスペシャリストとの交流は、自身の今後の研究にとって重要な意味を持つと思われる。

(3) 社会貢献（社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献）

ノーベル賞受賞後、フォークナーは戦後の日本を訪れ、多くの日本人作家に影響を与えている。大江健三郎や中上健次などが好例である。アメリカ南部という、アメリカの「別の国」は、アメリカにおいて「負けた国（地域）」でもある（南北戦争での敗戦と植民地化）。フォークナーが、日本とアメリカ南部を重ねたスピーチを行い、日本人を鼓舞したことは有名だが、これが戦後のアメリカによる民主化政策の一環だったことも見逃してはならない。

作家が生み出すテキストは、単なるフィクションではない。複雑なコンテキストがその背後にあり、それらは網状に接続し、影響し合っている。フォークナーが日本に与えた影響関係は、彼がラテンアメリカ諸国に与えたそれと平行であり、そこにはアメリカ合衆国の文化的・政治的関係が潜む。つまり、文学や文化を学ぶことで、その背後にある影響関係が見えてくるだけでなく、文化リテラシーやその政治性を考察する契機にもなる。この意味において、テキストとコンテキストを学ぶことは重要である。

(4) 若手研究者養成への貢献 (若手研究者養成への取り組み、成果)

今回の渡米では、大学院生などの同行はないが、海外での研究活動に関わることは、国際的な研究活動促進という意味でも重要であり、何より若手に対しての範となるように思われる。同時に、報告だけでなく、海外研究者との交流や友人関係を持つことで、よりグローバルで深い研究が可能になると思われる。我々の世代が率先することで、若手にはいい影響を与えていると確信する。

(5) 将来発展可能性 (本研究を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

「フォークナー&ガルシア・マルケス」の比較文学的考察は、当然のことながら、合衆国文学とラテンアメリカ文学の交差と影響関係を探る研究である。これらの比較文学は、環カリブ文学・文化に接続し、コロニアル/ポストコロニアルな視座や、合衆国の拡張主義や帝国主義のコンテクストからの考察も可能にする。閉じた研究ではなく、ジャンル横断やボーダー越境の文学・文化の考察は、それ自体、貴重であり、試みるに値する。今後は、ラテンアメリカ、カリブ海を含む「半球」思考から、合衆国文学・文化を捉え直そうと思っている。

また、一次資料研究として、サウスイーストミズーリ州立大学所蔵のプロツキー・コレクションに関しては、リーガー教授との共同研究を継続し、ハリウッドとフォークナーとの関係を軸に、クロスメディア的視座から、フォークナーを再考察したいと考えている。

(6) その他 (上記 (1) ~ (5) 以外に得られた成果があれば記述してください。)

例：大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得等

2015年、フォークナー研究所からBioKyowa Awardを頂いていることもあり、研究所とリーガー教授との良好な関係は継続し、出版を含む研究成果の公開に向けて努力している。同時に、フォークナー研究で有名なミシシッピ大学との連携も視野に入れて、研究を続けていく予定である。

2. 研究発表 (本共同研究の一環として発表 (予定含む) したものについて記述してください。なお、印刷物がある場合は1部添付してください。)

例：共著論文、口頭発表、出版、ポスター発表

【口頭発表】

Yukihiro TSUKADA "Invisible Ethnicity: Faulkner and Garcia Marquez's Mexican Connections,"
Faulkner and Garcia Marquez Conference. October 13, 2018. Center for Faulkner Studies.